



あいちの会 NEWS



第41号

発行責任者/北折健次郎 編集/あいちの会NEWS編集委員会

認定NPO法人 あいち骨髓バンクを支援する会 〒464-0006 名古屋市千種区光ヶ丘1-22-7-105

[電話&FAX] 052(712)0457 [E-mail] npoaichi@tj9.so-net.ne.jp [HP] https://www.aichinokai.or.jp/

ご挨拶

新型コロナの波が何回も押し寄せながら、既に1年半が経ちました。ワクチン接種も開始され、一部では危機感が薄れつつある中、未だに積極的に外出出来ずにいる血液疾患患者さんも多くいます。私自身も単身赴任ながら、外食するのをはばかられたり、遠方にいる高齢の母にも会いに行けない毎日が続いています。医療関係者として既にコロナワクチン接種が終了してから1ヵ月以上を経過していますが、ワクチン接種前に比べて、余計気を使うようになりました。以前は感染したらそれなりの症状が出るため、自分でも気づき早期に隔離をされ、それ以上感染を広めることはなくなりますが、ワクチン接種後は感染しても発症せずにウイルスをばらまくのではないかと、という不安があります。無症状の人は有症状の人より感染力は5分の1から20分の1低いとの報告もあるようで、過度に心配する必要はないのかも知れませんが、まだまだ未知のウイルスであり、これからもどんどん新たな変異ウイルスが出てくるでしょう。今の生活は今後まだ数年は続くと思われますし、何より、私自身が原因で周囲の人に移してしまい、その人の人生を大きく狂わせてしまうのは本望ではありません。もう以前のような生活には戻れないかも知れませんが、人類は過去から同様の試練を何回も克服してきた歴史があります。それを信じて日々精進していきたいと思えます。

あいちの会も、多くのイベントが中止、延期を余儀なくされ、昨年度は活動も停滞しました。具体的には2020年度のドナー登録会は41回で110人(2019年度は116回432人、2018年度は103回436人)、献血ルームでのドナー登録会は0回0人(2019年度は20回126人、2018年度は44回204人)、講演会は6回(2019年度は26回、2018年度は28回)でした。ありがたいことに、経常収益は3,029,110円と順調でしたが、出費が少なく経常費用は2,620,947円と少なく、あいちの会始めて以来、正味財産増減額が初めて408,163円の黒字になりました。でも、その代償にドナー登録者数の減少と講演活動、イベント等でのブース出展などがほとんど出来ておらず、一人でも多くの方に骨髓バンクの必要性を知っていただき、一人でも多くの方にドナー登録していただくことが出来なかったことで、助かるべき患者さんが助らなかったのではないかとこの自責の念に駆られる毎日です。(活動計算書等はあいちの会HPを参照してください。)

今後はもっと効果的なドナー登録方法(海外が行っているような口腔粘膜スワブ採取、郵送による登録)などの新たなアプローチが必要になってくるでしょう。今後とも、骨髓バンク、ドナー登録にご理解、ご協力をお願い致します。

理事長 北折健次郎

2020年度決算報告(2020年4月~2021年3月)

収入の部	
寄付金	2,909,083
賛助会費	120,000
受取利息・その他の収益	27
合計	3,029,110
支出の部	
推進活動費	270,405
普及啓発費	177,622
ボランティア活動費	14,214
通信費	342,643
事務所費(家賃・水道光熱費)	443,575
会報発送費	264,235
人件費(給与・通勤手当)	917,748
事務費・その他	156,505
教育活動費	34,000
合計	2,620,947

2021年度予算書(2021年4月~2022年3月)

収入の部	
寄付金	3,500,000
賛助会費	650,000
受取利息・その他の収益	20,000
合計	4,170,000
支出の部	
推進活動費	400,000
普及啓発費	400,000
ボランティア活動費	100,000
通信費	300,000
事務所費(家賃・水道光熱費)	500,000
会報発送費	520,000
人件費(給与・通勤手当)	1,610,000
事務費・その他	240,000
教育活動費	100,000
合計	4,170,000



※写真「みんなつながっているよプロジェクト」で作成したTシャツです。

「仕事と治療の両立支援」研究会に参加

5月16日(日)、「一般社団法人 仕事と治療の両立支援ネット-ブリッジ」主催の研究会で北折と水谷がお話させていただきました。(私は会場で、北折はリモートで参加)

この研究会は医療従事者、企業関係者、キャリアコンサルタント、社会保険労務士などを対象に開催されており、今回のテーマは「造血幹細胞移植による就労への影響」、当日も医療と労働などさまざまな立場で両立に関わる方々が参加されました。始めに水谷からあいちの会の活動についてお話させていただき、その後、北折から血液の成り立ち、白血病とは、造血細胞移植についてなど医学的な話を、再度、水谷から血液疾患患者の抱える現状と課題をお話させていただきました。移植がゴールと思われがちですが、晩期障害、GVHDなどと向き合いながら日々を暮らす患者さんの現状は参加者にとっては驚きだったようです。お話を聞いていただいたのち、質疑応答、グループディスカッションなども行われ、とても充実した研究会でした。オンライン開催で直接、参加者との交流が出来ずちょっと残念な気持ちもありましたが、反面、遠方からの参加も可能となり、コロナ禍だからこそ今の状況を改めて感じました。

ブリッジでは共通のテーマとして「医療×労働=職場の多様性の構築」を掲げ、3ヶ月に1度、研究会を開催しています。様々な支援団体とのネットワークを使い、役割分担し、患者さんが暮らしやすい社会を構築していくことの必要性を改めて感じた一日でした。

水谷久美



※写真左はブリッジ代表理事の服部文さん

活動報告

2020年12月～2021年6月

総会・理事会

12/27	2020年度第2回理事会	あいちの会事務所(Web開催)
1/3	2020年度臨時総会	あいちの会事務所(Web開催)
5/1	2021年度第1回理事会	あいちの会事務所(Web開催)
5/15	2021年度通常総会	あいちの会事務所(Web開催)

推進活動

2/28	「みんなつながっているよ」プロジェクト	あいちの会事務所(Web開催)
------	---------------------	-----------------

普及啓発活動

1/15	ファーストキフフェスタトークショーの収録	あいちの会事務所(名古屋市主催Web開催)
1/17	ファーストキフ・NPO30秒動画コンテスト用動画制作	あいちの会事務所(名古屋市主催Web開催)
2/2~2/28	ファーストキフ・フェスタ@オンライン	あいちの会事務所(名古屋市主催Web開催)
2/2~2/28	ファーストキフ・NPO30秒動画コンテスト	あいちの会事務所(名古屋市主催Web開催)
3/25	ファーストキフ表彰式・交流会	あいちの会事務所(名古屋市主催Web開催)
12月~3月	デンソーグループWebハートフルまつり	(株)デンソー主催Web開催
5/23	2021 第30回中部ウォーカーソン:5/23	あいちの会事務所(Web参加)
6/15	市政情報番組「コアラが住む街なごや」取材	献血ルームタワーズ20

講演会・勉強会等

12/16	説明会・語りべ	西尾市立看護専門学校
1/22	語りべ	東海学園大学名古屋キャンパス

1/30	語りべ	名古屋市立徳波小学校
3/22	説明会・語りべ	安城碧海看護専門学校
5/8	勉強会(愛知県学生献血連盟)	愛知県赤十字血液センター
5/11	語りべ	日本福祉大学東海キャンパス
5/12	勉強会	名古屋市立工業高校
5/16	講演会(ブリッジ研究会)	ウイックあいち
6/29	献血推進担当者会議及び献血推進リーダー研修会	愛知県自治センター

会議・打合せ

12/8	ファーストキフ参加団体説明会	あいちの会事務所(名古屋市主催Web開催)
12/10	「デンソーグループWebハートフルまつり」取材	あいちの会事務所
3/3	NPOグループヒアリング	あいちの会事務所(ボラミ主催Web開催)

関連団体

2/2	骨髄バンク地区普及広報委員・説明員研修会	あいちの会事務所(Web開催)
3/5~3/7	第43回日本造血細胞移植学会総会	あいちの会事務所(Web開催)
3/20~3/21	第3回AYA研究学術集会	あいちの会事務所(Web開催)
5/29	2021全国骨髄バンクボランティアの集い	あいちの会事務所(Web開催)
5/30	全国骨髄バンク推進連絡協議会総会	あいちの会事務所(Web開催)

会報発送

12/24	会報発送作業	あいちの会事務所
-------	--------	----------

ドナー登録会報告

2020年12月～2021年6月

実施日	実施場所	登録者数	実施日	実施場所	登録者数	実施日	実施場所	登録者数
2020年			2021年			2021年		
12/9(木)	愛知産業大学	1	1/2(土)	蒲郡市役所	2	3/17(木)	衣浦東部保健所	0
12/13(日)	豊川市総合体育館	中止	1/5(火)	官庁街献血	0	3/30(火)	株式会社シンテックホズミ本社	0
12/16(木)	西尾市立看護専門学校	15	1/6(水)	官庁街献血	3	4/8(木)	安城碧海看護専門学校	2
12/20(日)	クリスマス献血キャンペーン	2	1/7(木)	官庁街献血	2	5/9(日)	アピタ新守山店	3
			3/14(日)	スプリング献血キャンペーン	5	5/14(金)	豊橋駅南口駅前広場	5

みんなつながっているよプロジェクト 2021年2月(つながっているよ月間)

新型コロナの影響で昨年来非常事態宣言が出て、健常人でさえ不要不急でなくても出歩いたり移動することをためられる中、白血病や血液難病で闘病生活を送っている患者さんは、免疫力が低下しているために感染症に罹患することを恐れ、外出できなくなってしまっています。昨年6月に行われたWEB患者会で、普段普通に会って話をしている関係でもちょっと疎遠になってしまったり、外出がためられて気分がどんどん落ち込んでしまったり、必要最小限の外出でも出歩くことでコロナに感染した時の恐怖などの不安の声が聞かれました。治療が終了しても10年以上も経過し、日常生活をほとんど健常人と同様に過ごしてきた元患者さんたちも、精神的にも辛い思いをしていることを知りました。そんな状況を考慮し、Tシャツを作成し、ボランティア、患者さん、元患者さん、医療関係者などが、Tシャツを着て一緒にWEBでつながることで、「ひとりじゃないんだよ」「みんなつながっているよ」というメッセージを返し、絆を深めることが出来ればと思い企画しました。

2021年2月を「みんなつながっているよ月間」として多くの方がおそろいのTシャツを着て写真を撮って送ってもらうことで、一人じゃないんだ、いつも一緒にいるよという絆を共有し、最終日の28日にWEBで繋がって一同に会し、お互いの元気な顔を共有しました。写真は200人を超える方からいただきました。また、28日のWEBイベントでは、約60人の方に参加していただきました。初めに国立成育医療研究センターの松本公一先生に「コロナ禍における小児病棟の現状」でご講演をいただいたあと、看護師さん、患者さんからみたコロナ禍の現状をお話いただきました。その後、送っていただいた写真を、WEB上で一人一人ご紹介させていただき、最後に集合写真を掲載し、「ひとりじゃないんだよ、みんなつながっているよ」のメッセージで終了しました。

コロナ禍で、ほとんど患者仲間と会えなくなった人ともWEB上で繋がることが出来ました。スマホに不慣れで今まで誰ともコミュニケーションがなかった患者さんも、今回の企画に参加したために、ご家族からZOOMの使い方を教えてもらい、画面上ではありますが、何十年ぶりに元気な顔を拝見することが出来た患者さんもしらっしゃいました。それ以外にも、私たちが何回かZOOMの事前練習を行ってこのイベントに参加された患者さんもたくさんいました。通常の集合型のイベントでは、近隣の方しか参加できませんでしたが、今までの対面型の患者会では体調が悪くて当日参加出来なかったり、遠方で移動に不安があり参加出来なかったりした方がいましたが、新型コロナ感染症の影響でWEB

会議システムが一般化し、誰もがどこにいてもWEBで繋がることができるようになったのは、喜ばしいことでもあり、このイベントの一番の目的でもあります。今後の患者会のあり方や患者同士の交流の一助になったのではと思います。写真はイベントにTシャツを着て写真を送っていただいた方たちの集合写真ですが、カラーでご覧になりたい方は、あいちの会YouTubeチャンネルに動画がアップしてありますので、ご覧いただければ幸いです。(https://www.youtube.com/watch?v=xxf8vvEIHw0)



社会課題解決推進イベント「ファーストキフ」

令和2年度も名古屋市主催の社会課題解決推進イベント「ファーストキフ」に参加しました。このイベントは「寄付募集」と「情報発信・市民との交流」の2つの側面に焦点を当てたイベントで当会は毎年参加しています。2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンラインを中心としたイベントとなりました。

チャリティーイベントとして観覧料の一部がチャリティーとして配分される「ファーストキフ・ファミリーサーカス」も行われました。前年度まではサーカス開催会場に出向き、観覧にいらした方々に直接、啓発資材の配布を行ったり、幕間に舞台上でPRなどを行いました。しかし、今回は直接会場に出向き、ご支援くださる方々にお会いできなかったことに寂しさも感じました。

メインイベントの「ファーストキフ・フェスタ@オンライン」は2月2日～28日まで、特設ページを立ち上げ、参加のNPO11団体が30秒のPR動画を作成、センターのYouTubeチャンネルを通じて公開されました。同時に「トークショー配信」も行われました。中京テレビアナウンス部所属のバーチャル・ユーチューバーの大鷲エルさんがファーストキフ事業をPR、各参加団体と活動のPRも掛け合いで行われました。

また、PR&ファンドレイジングイベントとして作成された動画の「NPO30秒動画コンテスト」も行われました。活動PR動画に対して、市民の方々の再生数や高評価数、応援メッセージ数に応じて賞金が配分されました。当会は67,446円の賞金とファミリーサーカスからは27,284円の配分をいただくことが出来ました。多くの方からのご寄付は患者さんやご家族のため大切に使用させていただきます。ありがとうございました。

コロナ禍で事前説明からイベント期間中、ほとんどオンライン開催でしたが主催者、関係各所、参加団体の皆様のご努力で充実したイベントに参加することが出来ました。今年度も同様のイベントが開催されるとのこと。今年度こそオンラインではなくリアルなイベントが開催されることを願っています。



第30回 中部ウォーカーソン

5月23日(日)、午前10時からFacebook を利用したライブストリーミング配信と名古屋市内ウォークラリーで始まった第30回中部ウォーカーソンに今年も参加しました。今年度は一部のチャリティー団体が生配信で参加、あいちの会も中部ウォーカーソンとの関わりの歴史、これまでに支援を受けられた方(または出来事)で最も思い出に残るストーリー、思い出などお話ししました。ウォーカーソンからは1998年からご寄付をいただいておりますが、当初はあいちの会の前身の一つである「愛知県長期滞在患者を支援する はなのきの会」(病院の近くに宿泊施設を提供する団体)へのご寄付でした。「何か困っていることはないですか?」「必要な物はないですか?」と、ウォーカーソンのスタッフの方が事務所に訪ねて下さったこと、その後、いただいたご寄付で、ご家族が患者さんのもに通う自転車や、付き添い生活が快適に過ごせるためのエアコンなど購入させていただいたことなどお話しさせていただきました。その後、あいちの会の前身のもう一つである「骨髄バンクを支援する愛知の会」とはなのきの会が合併したため、骨髄バンク普及啓発などに寄付金を使わせていただいている旨、お話ししました。昨年の「みんなつながっているよ」プロジェクトの報告もさせていただき、ご披露もかねて作成したTシャツを着用しました。生配信ということで、うまくZoomが繋がるかと心配していましたが、やはり直前にネットが繋がらない…。焦りましたが、何とかスマホに繋ぎなおして出演時間ギリギリで間に合いました。2年続きでオンラインイベントとなり、当たり前だと思っていた以前のようなイベント(活動)の大切さを改めて感じました。来年こそ、以前のようにブースを出展し、多くの方とお会いできることを願っています。

献血推進担当者会議及び献血推進リーダー研修会

6月29日(火)、愛知県自治センターにて令和3年度献血推進担当者会議及び献血推進リーダー研修会『おいを伝えたい「献血ドナーさん、ありがとう」』と題して患者家族さんと一緒に出向きお話しさせていただきました。毎年開催されている研修会ですが昨年度は中止、今年度は感染対策を徹底しての開催となりました。

献血推進担当者とは保健所などの献血担当者(愛知県は献血担当と骨髄バンク担当は同じ部署です)、献血推進リーダーとは市町村や献血協議会等団体の方々です。主催は愛知県、初めに愛知県医薬安全課長と愛知県赤十字血液センターの事業推進部長からご挨拶があり、その後、医薬安全課主任から「愛知県の血液事業について」の報告がありました。休憩を挟んで、再度、血液センター事業推進部長から「血液事業の現況」についての講演があり、愛知県の献血実績は献血者目標数289,400人に対して実績は295,521人と目標数を上回る方々にご協力いただくことが出来たとの報告がありました。今後の啓発活動として若年層、幼少期に対しての「夏休み親子血液教室」や献血キャンペーンのお知らせもありました。例年であれば「夏休み親子血液教室」は瀬戸の血液センターで行われますが、今年度はオンライン開催との事でした。また、毎年開催の「愛知県献血運動推進大会」の中止も決定したとの報告があり、大会会場にて骨髄バンクの普及啓発活動を毎年行っていただけに寂しい気持ちにもなりました。献血でいただいた血液が医療現場でどのように活用されているかなどのお話もありました。

続いて、私から当会の活動、骨髄バンクの現状と課題などお話しさせていただき、その後患者家族さんから皆様からいただいた血液により、患者は安心して輸血が行われたこと、献血ドナーさんへの感謝の気持ちをお伝えいただきました。今後も献血事業へのご協力をお願いし、そして献血併行型ドナー登録会の開催もお願いしました。コロナ禍、少しずつではありますが従来の活動がスタートつつあります。以前のような環境までには少し時間がかかりますが、皆様にお伝えできる時間が出来たと改めて嬉しく思いました。

水谷久美



西尾市立看護専門学校

12月16日(水)、西尾市立看護専門学校の1~3年生に「患者さんとドナー“いのち”をつなぐために～あなたの手から“いのち”のバトン」を演題にお話をさせていただきました。3年生は対面で、1,2年生はリモートで別の部屋で聴いていただきました。毎年8月に3年生に向けて講演会がありますが、今年はコロナウイルスの影響で日程をずらして全学年に対して行われました。始めに骨髄バンクの登録から提供までの流れについて説明するDVDを視聴いただきました。次に水谷から骨髄バンクの現状と課題や必要性を、また患児だけでなくその兄弟姉妹の精神的ケアの重要性などについて話されました。続いて、水谷と対話形式で私が闘病体験を話しました。発症から2回の移植を経て現在までについて、診断時の気持ち、移植後の再発の恐怖や再発後の心境についてお伝えしました。私は家族間のドナーがいましたが、それはレアケースであり、多くの方が家族間のドナーが見つからないことから骨髄バンクの登録をお願いします。学生さんから白血病の患者に対してどう接すべきかという質問をいただきました。白血病に関わらず、どんな患者さんに対しても信頼関係をまず構築することが重要で、そのためにも学校で習った援助の際の声かけなどの細やかな配慮が信頼に繋がっているのではないかとお答えしました。その後、患者さんとの関わりという点で、北折から緩和ケア医時代のお話がありました。「患者に寄り添う」という言葉がよく使われますが、「寄り添う」のは大切だが、寄り添いすぎると医療従事者も一緒に倒れてしまうかもしれないので、「寄り添う」ではなく、「たたくむ」ということを大切にされていたそうです。

例年通り、講演後には献血併行型の登録会も行われました。登録者は15名と毎年多くの学生さんにご協力いただき感謝しています。看護学生さんたちはコロナ禍、病院実習も例年通りには進まず、大変な思いをしていらっしゃると思います。コロナ禍でいろいろな事で不自由な学生生活を送らざるを得ないとは思いますが、だからこそ得るものもあるかと思えます。体調に気を付けて将来、医療現場に立たれた時には患者さんやご家族のお力になっていただけることを切に願っています。

安田真美



東海学園大学

1月22日(金)、東海学園大学 教育学部教育学科 養護教諭専攻2年生の学生さんに向けて骨髄バンク、ドナー登録などについてお話してきました。この活動は今年で3回目となります。愛知県赤十字血液センターが開催する若年層向けの献血セミナーに同行する形で始まったこの講演活動、大学からは、献血・骨髄バンク両者の話が聞きたいとお申し出から毎年お邪魔させていただいています。当日は患者さんにもご同行いただきました。

前半は血液センターから輸血用血液製剤の安全対策など詳しく説明、学生さんたちは真剣に聞いていらっしゃいました。というのも、養護教諭専攻の学生さんのほとんどが献血経験者です。名古屋市内の献血ルームに定期的に通い、積極的に献血にもご協力いただいています。後半は私から骨髄バンク、造血幹細胞移植について、現在40代、30代の登録者数が多いことから若年層の登録の必要性もお話しました。また、養護教諭を目指す学生さんということで、患児だけではなく兄弟姉妹のケアも心掛けていただけるようお願いしてきました。続いて、患者さんから発症から2回の移植を経て現在に至るまでの経緯、闘病の大変さについてお話いただきました。ご自身のご兄弟からの移植で骨髄バンクドナーを検索する必要がなかったことがどんなにラッキーなことか、今もたくさんの患者さんがドナーさんを探しているのだということをお話しました。また、輸血後の副作用や輸血に伴うウイルス感染症に対して処理作業を経て、安全安心な血液が自分の元に来ていたのかと思うと患者として感慨深かったとも話されていました。

コロナ禍で今までとは違った環境での講演で少々緊張しましたが無事終えることが出来ました。関係各所の皆様にご挨拶申し上げます。また、先生から嬉しいニュースも届きました。1回目の講演を聴いて下さった学生さんが登録、その後ドナーとして選定されたとのこと。日々の活動の積み重ねの必要性を改めて実感できた一日でした。

水谷久美



名古屋市立工芸高等学校

今年も名古屋市立工芸高等学校の生徒さんに骨髄バンクについて、病気について、移植についてお話してきました。グラフィックアート科3年生の生徒さんは社会貢献活動として毎年、名古屋市からの依頼でポスターやクリアファイルのデザインをしています。今年作品制作希望の生徒さんは5名です。昨年はコロナ禍、勉強会は開催されませんでした。毎年お邪魔して作品制作にあたり情報を提供しています。

毎年、斬新で素敵な作品に仕上がります。献血ルームタワーズ20にて披露されます。基本的には上位2名の作品がポスターとクリアファイルとなりますが、他の作品も名古屋市の啓発グッズ、付箋、ティッシュ、バンドエイドなどに使われます。今年もどんなデザインの啓発グッズが出来るか、秋頃には薬局(薬剤師会から配布)、医院・クリニック(名古屋市医師会から配布)にポスターが貼り出されます。どんな作品になるのか、今から楽しみです。

水谷久美



寄付者名簿 ～多くの方のご協力に深く感謝申し上げます～ 2020年12月～2021年6月 敬称略・順不同

月	寄付者氏名・団体名	金額	月	寄付者氏名・団体名	金額	月	寄付者氏名・団体名	金額	
12	東海ろうきんNPO寄付システム	38,400	2	渡辺悦子	10,000	5	金澤信哉	10,350	
	磯貝弘	3,000		3	キムラタカオ		10,000	東海ろうきんNPO寄付システム	37,900
	大脇健司	20,000			毎日新聞大阪社会事業団		600,000	(株)エントリー	27,284
1	楠本茂	10,000	3	東海ろうきんNPO寄付システム	38,100	6	名古屋市市民活動推進センター	67,446	
	山田重子	30,000		中神立善	5,000		ハシモトヨシオ	10,000	
	東海ろうきんNPO寄付システム	47,300		光ヶ丘女子高等学校	24,000		酒井照子	10,000	
2	東海ろうきんNPO寄付システム	37,700	4	水谷久美	10,000		東海ろうきんNPO寄付システム	37,900	
	鈴木耕平	10,000		丹羽哲久	10,000				

イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン

マックスバリュ太閤店		イオン熱田店	
2020年3月～2020年8月	16,500	2020年3月～2021年2月	65,300
2020年9月～2021年2月	13,200		

※プリンター用インク、封筒他事務用品、衛生用品などの購入に活用させていただきました。

イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーンとは

毎月1日の「イオン・デー」に、実施している「イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン」は、お客さまがレジ精算時に受け取った黄色いレシートを地域のボランティア団体名が書かれた店内備え付けのBOXに投函していただくことで、レシート合計の1%分の品物をイオンが各団体に寄贈する取り組みです。(イオンHPから)

名古屋市立穂波小学校

1月30日(土)、穂波小学校の4年生の皆さんに骨髄バンクについて、病気の事、あいちの会の活動などお話ししました。穂波小学校開校70周年記念行事として1月29日(金)と30日(土)の2日間予定されていましたが、コロナ禍で行事が縮小されました。本来なら30日には新潟の丹後まみこさんが来名し、全校児童を対象に講演会「いのちのあさがお」が開催されることにもなっていました。29日にリモートでの開催と変更されました。私がお話させていただいた時間も本来なら全学年、「道徳」「総合的な学習」「生活科」の時間でテーマは「いのち」という同じ内容で授業参観が行われる予定でした。ご父兄の参観はありませんでしたが、1組が2限目、2組が3限目、それぞれの教室で子どもたちと楽しい時間を過ごしました。全学年、ビデオの「いのちのあさがお」も視聴済みで、あさがおの種も4年生の児童にはお渡ししました。

「あいちの会はどんな活動をしているの」「あさがおの種はどうやって集めるの」「なぜ、こうすけ君は病気になってしまったの」「白血病は治らないの」など子どもたちからの質問もたくさんありました。一つ一つ丁寧に答え、「いのち」について一緒に考える時間となりました。成長過程で考え方、思い方などいろいろであり、改めて「伝える」ことの大切さ、難しさも考える機会にもなりました。また、コロナウイルス拡大により子どもたちにも大きな影響が出ていることを改めて感じました。とは言え、子どもたちは元気いっぱい、パワーをもらった一日でした。

水谷久美



愛知県学生献血連盟

5月8日(土)、愛知県学生献血連盟の学生さんの総会が開催されました。昨年はコロナ禍、総会も中止となりましたが、今年は瀬戸の愛知県赤十字血液センター内の広い会議室で密を避けての開催となりました。とは言え、感染が広がっているということで欠席の大学も多々あり、改めて現状の厳しさを感じました。愛知県からは県内の骨髄バンクのドナー登録現状の報告がありました。私からは病気について、移植について、骨髄バンクについて(現状、問題点、課題など)をお話させていただきました。

毎年、学生献血連盟主催のイベント(サマー献血、クリスマス献血、スプリング献血)時、併行型の登録会を開催していただいています。骨髄バンクについての知識を得ることで、登録を呼びかける学生さんの活動への意識も上がるため、このように定期的に開催していただいていることに感謝するとともに、その必要性を改めて感じました。今年度も学生献血連盟主催のイベントが行われると思います。多くの学生さんにドナー登録頂けると嬉しいです。

水谷久美



MONTHLY JMDP R3.6.15 jmdp.or.jp/about_us/publishing/monthlyreport.html

日本骨髄バンクの現状(2021年5月末現在)

	4月	5月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,892	2,671	533,074	860,638
患者登録者数	227	163	1,726	61,828
移植例数	104(30)	71(13)	—	25,505(1,265)

※[]内は末梢血細胞移植の実施数(国際間含む)

■ 5月年代別ドナー登録者数(現在数)

10代	2,934人
20代	83,776人
30代	137,114人
40代	222,739人
50代	86,511人

■ 5月の20歳未満の登録者/256人

■ 5月の区分別ドナー登録者数: 献血ルーム/811人、献血併行型集団登録会/1,800人、集団登録会/0人、その他/60人

■ 5月末までの末梢血幹細胞移植(PBSCT)累計数: 1,219件(国内ドナー→国内患者) 注) 数値は速報値のため訂正されることがあります。

愛知県	血液センター登録数			移植例数 25,505例、採取数 25,532例			
	5月登録者数	5月取消数	累計	患者居住地	移植数	提供者居住地	採取数
	77	71	21,762	1,528	2,143	1,526	1,851

※採取されたものの移植に至らなかったケース12例と翌月移植予定15件が含まれているため移植数と採取数は一致しません。

「全国骨髄バンクボランティアの集いin東京」と通常総会

5月29日(土)、「2021全国骨髄バンクボランティアの集いin東京」がオンラインで行われました。「継承される命・こころ、真の緩和ケアとは～若い親が病気になるといふこと～」を掲げ、ハイブリット方式(Zoom)でパネルディスカッションなど生配信されました。パネルディスカッションのコーディネーターは大谷貴子さん、がん患者の親を持つ子どもへのサポートチーム(慶應義塾大学病院 Skip チーム)の近藤咲子さん・伏見幸弘さん、お母様をがんで亡くしサポートを必要と感じた井上雅代さん(慶應義塾大学2回生)をパネラーとしてお迎えし、がんと診断された時に、周囲に、特に子どもにどう伝えるか? また両親ががんと診断され治療を続ける時に子どもたちはどう受け止めているか? などそれぞれの立場からお話いただきました。時代背景や患者さんを取り巻く環境に違いはありますが、病気との向き合い方を改めて考える機会になりました。二人に一人はがんに罹患するといわれている今、自分が、家族が病気になった時、心身ともどう向き合うか…、答えはまだ出ませんが今回のお話をきっかけに考えていきたいと思いました。子どもが病気になった時の親へのサポート、親が病気になった時の子どもへのサポート、兄弟(姉妹)支援、患者さんへの直接支援(学習・就労他)など、心のケアだけではなく、どんな社会的支援があるか。あいちの会としてもどんな支援が出来るか、支援するためには何を習得しなければならないかを改めて考える時間でした。翌日の5月30日(日)には通常総会が行われ、2020年度の事業報告、決算報告、監査報告、2021年度の事業計画案、予算案、役員を選任など説明、全ての議案が承認されました。全国協議会は今年30周年を迎えます。前日の集いでは30周年記念宣言も読み上げられました。全国のボランティアとともに「一人でも多くの患者さんの命を救うこと」を願い活動を続けていきたいと改めて感じた2日間でした。 水谷久美

事務局だより

毎年、参加させていただいている「デンソーグループハートフルまつり」が新型コロナウイルス感染防止のためオンラインで開催され、YouTube上で団体、活動紹介動画でPRさせていただきました。動画の撮影は株式会社好生館プロジェクト(名古屋の大学生ベンチャー企業。企業とのコラボを通じ地域課題の解決に取り組んでいる)の学生さんにより事務所にて行われました。様々な活動がオンライン開催となり、今までお会いしていた方々に会えないのは寂しいですね。オンラインにより、今まで参加できなかった遠方の方々の参加も出来るようになるという便利さもありますがやっぱり皆様とお会いしたいです。ワクチン接種が拡大し、感染者も減少して以前のような社会生活が早く送れることを切に願っています。それまでは再会を楽しみに、出来ることを精一杯頑張ります。皆様、今後もあいちの会を応援してくださいね。

あいちの会のHPが一新しました。是非お立ち寄りください。 URL: aichinokai.or.jp

ご寄付のお願い

あいち骨髄バンクを支援する会の活動は皆様の善意に支えられています。いただきましたご寄付は骨髄バンクドナー登録の拡大のため、また血液難病の患者さんやそのご家族のお力になれますよう、大切に使用させていただきます。ご支援ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

寄付受付

| 一般寄付

この会の趣旨に賛同し、継続的にご寄付をいただける個人、企業及び団体。

| 賛助会員

※企業及び団体 一口30,000円/年
※個人 一口10,000円/年

ボランティアについて

| ボランティア会員

この会の趣旨に賛同し、運営や活動に直接関わっていただける方。(会費無料)会報や活動報告、イベント案内、骨髄バンクの情報などをお送り致します。



銀行口座
三菱UFJ銀行
金山支店 普通3654780

あいち骨髄バンクを支援する会は、名古屋市より「認定特定非営利活動法人(認定NPO)」として認められました。これにより、2016年2月2日より当NPOにご寄付頂ける個人・法人の皆さまは、寄付金控除の税法上の優遇措置を受けることが出来るようになりました。(所得税・相続税)

郵便振替口座
00890-0-76637

認定特定非営利活動法人
あいち骨髄バンクを支援する会